

時代	旧石器時代～弥生時代
<h1>隠岐産の魔法の黒い石</h1> <h2>～隠岐産黒曜石の流通～</h2>	
<p>弥生時代に鉄器が普及するまで、石器は主要な道具でした。特に黒曜石は切れ味が鋭く、ナイフや鎌の材料として重宝されました。黒曜石の産地は限られており、出土地点から当時の人々の活動範囲も知ることができます。隠岐産の黒曜石も広い地域から出土しています。</p>	

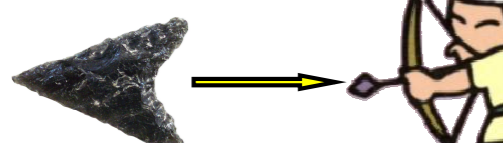
①黒曜石の利用



図1 黒曜石の原石

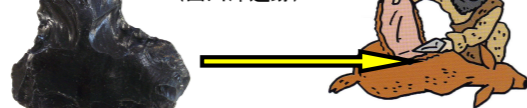
黒曜石は、現在、隠岐の島町五箇の久見海岸で採れます。硬い反面、衝撃に弱く割れやすいので、肉や魚を切ったり刺したりする時は鉄器に近い切れ味ですが、木を加工したり、木の実を潰したりするには不向きでした。古代人は石の性質をよく心得ていて、用途にあった石を選んで使っていたと考えられます。左の写真は、黒曜石の原石です。表面は灰色で、ざらざらしていますが、割ることで黒いつやのある鋭い石器となります。

図2 石鎌 (西川津遺跡 松江市)



矢の先に固定し、狩猟に使用しました。刺さりやすく、また刺さった時に抜けないように形が工夫されています。

図3 スクレイパー (西川津遺跡)



動物の皮や肉を切ったり、木や骨を削ったりするときに使用しました。細かい刃が作りやすい黒曜石の特徴を生かして、いろいろな形のものが発見されています。

②隠岐産黒曜石の流通

黒曜石は火山活動でできる石ですが、どの火山でも産出されるものではありません。日本の産出地は約70か所しかなく、このうち石器の材料として利用されたのは北海道白滝、長野県和田峠、伊豆諸島神津島、大分県姫島、佐賀県腰岳、そして島根県の隠岐島などわずかです。

また、黒曜石は分析によって、どこで産出されたのかがわかるので、石材の流通や人々の行動範囲を調べることができます。

隠岐産の黒曜石を見てみると、島根県はもとより、西は山口県、東は滋賀県、南は香川県と広い範囲で発見されています。

海を船で渡ることが困難であった当時でも、隠岐島とこれらの地域は、黒曜石を通じて交流があり、黒曜石がいかに重宝されていたかが分かります。



出典：解説…(図1, 4)『いにしへの島根ガイドブック 1巻』 1996 島根県古代文化センター
(図2, 3) 島根県埋蔵文化財調査センター

～隠岐産の魔法の黒い石～

年 組 名前

隠岐では“黒曜石”という石が採れます。黒曜石は、割ると刃物のようにするどくなることから、旧石器時代から石器の材料として利用されてきました。

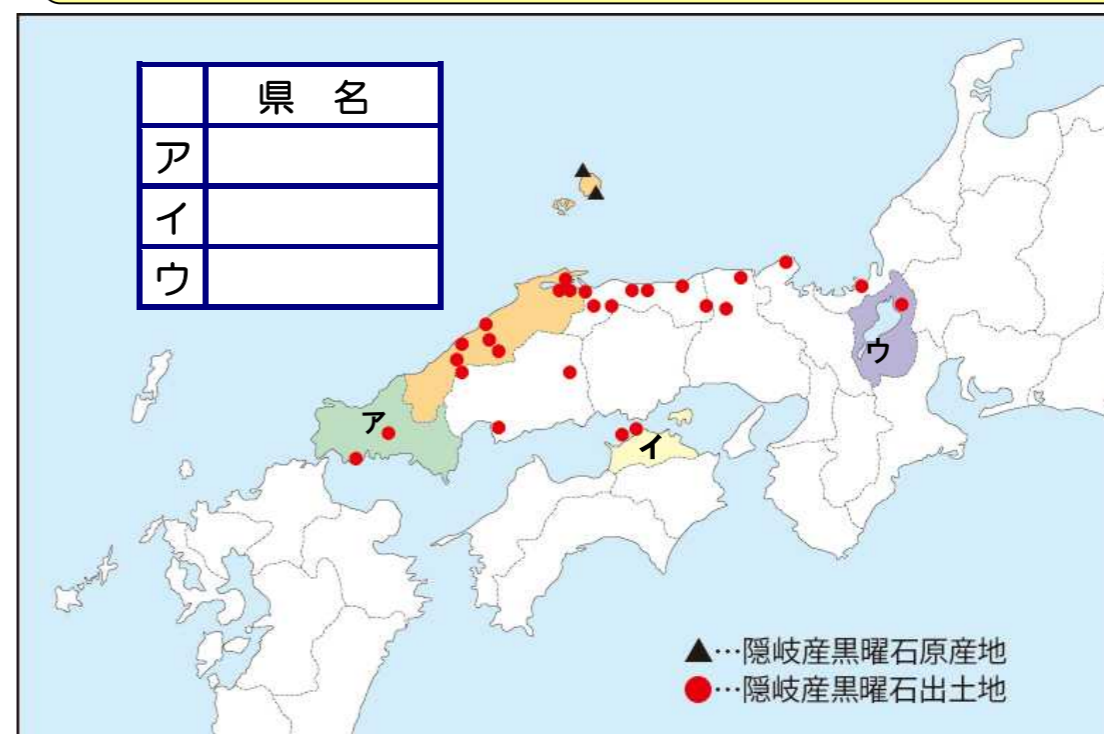
Challenge

① 下の写真は、隠岐でとれた黒曜石で作られた石器です。どのように使っていたのか、想像して書きましょう。



② 隠岐産の黒曜石で作った石器は、島根県以外でもたくさん見つかっています。隠岐から遠い、地図の中のア～ウの県名を書きましょう。

	県名
ア	
イ	
ウ	



黒曜石の原石

黒曜石は自然のガラスだから、ザラザラな表面を割ると、中から黒いガラスのような面が出るよ。



③ 縄文時代の道具や生活の様子について、さらによく調べてみましょう。